みんなでつくろう！ようかいちのまち

八日市まち協だより

NEW 八日市コミセンHP

第61号
令和3年11月発行

太子ホールを中心に八日市おかえり食堂を運営されている「おてんとさん」を紹介します。おてんとさんは子ども食堂の運営のほか、平日にお家で過ごす子どもたちへのサポートの「八日市おかえり食堂＋プラス」や支援の必要なお家に食事を届けるフードドライブを実施するなど、活動を広められています。

私たちは、2016 年からこども食堂「八日市おかえり食堂」を運営している、おせっかいなお母ちゃんの団体です。

八日市おかえり食堂は、赤ちゃんから年配の方までどなたが来て下さってもいい場所です。お家のように安心して「ただいま」と帰ってこられる、どなたもが気軽に立ち寄れる食堂を目指しています。

子どもたちをみんなで見守る居場所。あそびも勉強も自由。「おかえり～」と出迎え、みんなであったかいご飯を囲める、途切れない居場所を地域で作り続けたいと考えています。

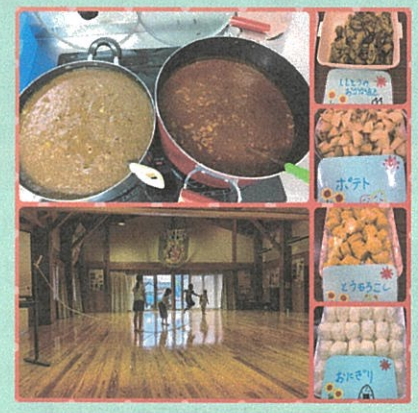
この日は百人一首をしました

これまで八日市おかえり食堂は、地域の飲食店さんからたくさんの応援をいただいてきました。

今回のまちづくり応援補助金は、応援いただいてきた地域の飲食店さんのおいしいプロの味を、つながりのある応援家庭に届けるプロジェクト（フードドライブ）に使わせていただきたいと考えています。

私たちでは当然に無理なプロの味を、私たちだからできる必要なお家に「届ける」という形でつなげていきたいと思っています。

野菜やらお菓子やら応援いただいています



最近はコミセンも使っています

まちづくり応援補助金とは

八日市地区まちづくり協議会が八日市地区内でまちづくり活動をされている団体等を応援するために創設した補助金です。「おてんとさん」は、その補助金を受けられた第１号です。

八日市おかえり食堂は、毎月1回土曜日に開催
場所は、金屋大通りの太子ホール
お問い合わせは
電話：090－5151－4340（菅谷）
mail：youkaitiokaeri@gmail.com まで
お問合せ専用 LINE 公式アカウント

八日市地区文化祭は、コミセンが衆議院議員選挙の投票所となったため、急きょ日程を変更し２４日の午後から３０日の午前までの開催となり、ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

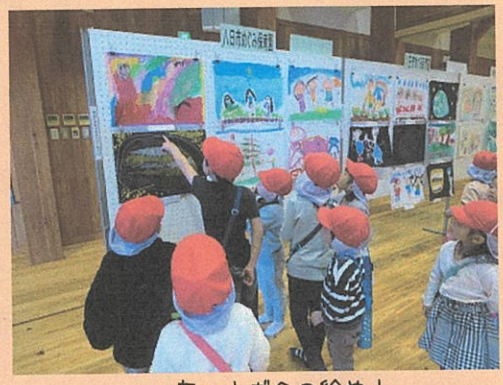
今年は一般の方からの出展も多く、また、コロナ禍で行事が制限されている中にもかかわらず、活発な自治会活動、各種団体やまち協プロジェクトなどの紹介もしていただきました。皆さんにそれぞれの活動を知っていただく良い機会だったと思います。

わたしにも作れるかな

カラフルな自治会紹介

ツムツムのキャラクターの折り紙に園児たちの目が釘付け

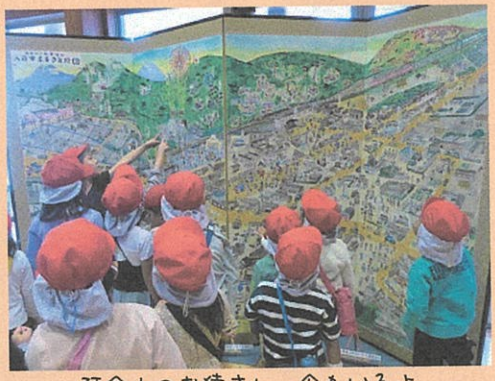
私が写ってる！



あっ！ボクの絵や！

どれも力作ばかり

卒園された園児さんの作品もあったよ



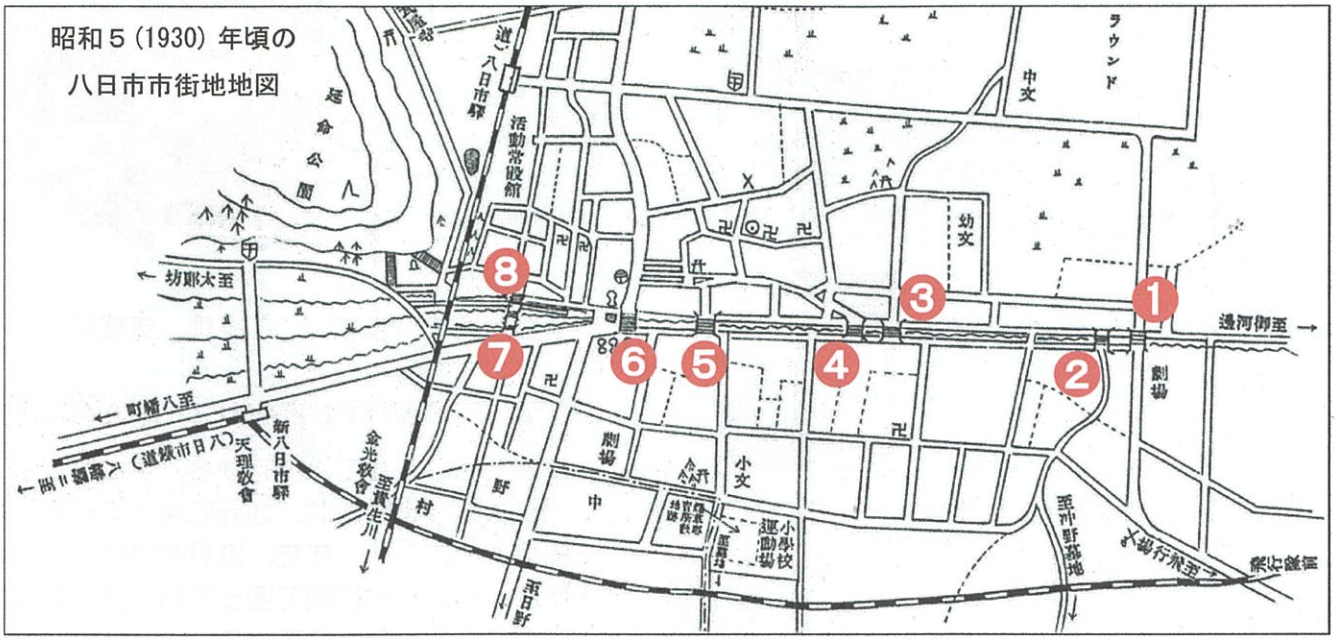
延命山のお猿さん、今もいるよ

こうやってお面がつくられるのか

おもちゃの病院

ご好評につき、時期は未定ですが、次回を企画します。

10月30日にはじめて開院したおもちゃの病院。予想以上の来院で、８人から１２点の入院がありました。八日市町のドクターＭの必死の治療により、１１月９日までにすべて退院していただきました。
好評でしたのでまた開院しますね。



あれやこれや（其の十七）　地下を流れる筏川の橋の巻

八日市中央部を通る重要な道筋の一つ、大通り商店街（八風街道）のむかしの家並み再現を試みた。「むかし」とはおよそ昭和２５年頃のことです。但し、筏川及び筏川に架かる橋の話題については、昭和９年以前の筏川覆蓋（フクガイ-ふたをすること）前と、更に時代を遡っている。

・筏川に架かる橋については、昭和５年頃の八日市市街地地図でも確認出来るが、地図上の多数の小路が直線状に橋と連結している様に描かれている。しかし、架橋地点を正確に家並み図と突き合わせると、①橋は同位置、②橋は下流へ七軒分、③橋は上流へ九軒分、④橋は同位置、⑤橋は上流へ五軒分、それぞれずれている。これらを補正しても長い直線の小路と橋は直結していない。

これは江戸時代の統治制度に起因している。筏川は神崎・蒲生両郡境以前に、井伊藩＋旗本対伊達藩の区分のとおり、親藩対外様の藩境であり、それぞれが自領に直結する道筋は無視出来なかったのであろう。

・筏川に架かる橋の数については、八日市まち協だより２６号で髙村氏が、位置を特定した上で８本と説明されている。今回の家並み図との突合せの結果、新たに２本、③橋上流の一心堂表具店前、④橋下流の寺田呉服店前が発見された。だからと言って８＋２＝10とはならない。髙村氏は、地元古老談として、「⑧橋は清水神社北側の筏川に架かっていた」と紹介されている。加えて「第八橋」と彫刻された石橋の遺構が現存する。途中追加があると、⑧橋が⑧橋ではなくなる。筏川の築造年については、未だに定見を得ないが、興福寺文書等から少なくとも鎌倉時代末期まで遡るという。その後の長い期間に橋の新造、損壊等が無かったはずはない。

もう一度、八日市市街地地図を確認してみる。すると、②橋と③橋の間で地図記号「橋」の付されていない地点で小路が筏川を渡河している。八日市市史第四巻第四章第一節では、筏川に架かる橋について、駒井（筏川のこと）は八日市町域が拡大するにつれて筏川に橋梁を架けることが増加し始め、次第に田用水に障害を生むこととなり、橋幅、材質、間隔等に規制が付けられたとある。これらから数の追加は地図記号「無し」として認めるが、正規は地図記号「有り」で定数の８ではなかろうか。

・清水町については、筏川の流路と湧水（清水川）の流路が入り組み特定は難しいが、架橋が確実に確認出来る、栄町通りとの接点（⑥橋）、駅前通りとの接点（⑦橋）、清水神社への接点（⑧橋）と推定した。また、「大正橋」の別称を持つのは、大正末期に完成した東本町新道に架かる①橋のことで、八日市市場と金屋市場の出入口にあったという。別称「巡礼橋」は④橋のことと思われる。

森野吉雄

※聖徳中生徒作成の「筏の流れ３」、図司睦三良氏作成の「大正時代の家並図及び公共新報の住宅案内図」、「八日市市史第四巻」を参考資料として使用しました。

きらり ～この人～　椅子張り職人
小杉光太朗さん

金屋大通りを東側に出たところ、上之町交差点の
小杉椅子店をご紹介します

小杉光太朗（コスギ　コウタロウ）さん
椅子張り職人　35歳
奥さんと子ども3人のご家族
出身地　東近江市小脇町

どうしてこのお仕事をされるようになったのですか？

最初は家具作りとは無関係の会社に就職しましたが、家具作りに興味があり大阪のソファを作る工場に転職、そこで初めて椅子張りという仕事を知りました。スキルアップを図るため、京都の椅子張り職人のもとで６年間修業し、４年前に地元に戻り開業しました。

小杉椅子店はどんなお店ですか？

主な仕事はご家庭や店舗で使用されている椅子・ソファの張替えです。
張替えの工程は、釘を抜いて古いクッション材を取り除く → 座面のバネやベルトなどを取り付ける → ウレタンフォームで成形する → 布生地やレザーを裁断、縫製する → タッカー（木工用のホッチキス）でとめて仕上げる。かかる日数は、１週間～１ヶ月程度です。

また、木工家具職人とコラボして、別注の椅子・ソファの製作も行っております。お客様に好みの色や素材（生地・レザー）を選んでもらい仕上げていくオリジナルソファも考えています。　ご相談、気軽にお越しください。

どうしてこの場所でお店をはじめられたのですか？

京都で修行をしていた時から、子どもが生まれ幼稚園に入園する頃には、地元に戻って子育てしたいと考えていました。また、滋賀県は椅子張り職人が少なく、張替えの依頼で困っている方のお役に立ちたいという思いがありました。

八日市でお店をはじめられてどうですか？街に対する思いは？

夜など人通りがなくなると街が寂しくなるので、最初はクリスマスシーズンにイルミネーションを飾りはじめました。今では「少しでも街が明るくなれば」という思いで、夜は一年中、店の周りをイルミネーションで飾っています。

椅子張り職人は、飲食店が多い京都や大阪では以前は沢山おられたそうですが、最近は職人の高齢化で少しずつ減っているそうです。でも、コロナ禍で在宅時間が増えたせいか、張替えの仕事は増えているそうです。

お店には手作りの可愛い看板が掛けてあり、店の周りもバラなどの緑で綺麗です。

お店に入ると色々な椅子が並べられており、その奥は作業台やミシン・工具が並び、物作りの工房だと感じました。

八日市の街にも小杉さんのようなお店が増えると街が楽しくなりますね。

山下勝司

片言隻句（へんげんせっく）

鉢植えのハゼノキが赤くきれいに色づきました。俳句の世界では、秋に美しく紅葉するハゼノキを櫨紅葉（はぜもみじ）と呼び、秋の季語だそうです。

一時は、セイタカアワダチソウに追いやられていた秋の風物詩であるススキも、多く見られるようになりました。移り変わる樹々の色合いや風景は、私たちに季節の移ろいを教えてくれます。

そんな落葉樹は、気温が低くなると葉から得る栄養より幹から葉に送る栄養が多くなるため、葉への通り道をブロックして葉を落とす準備をします。葉は緑素を分解して養分に変えるため、緑色がしだいに弱くなって、もとから葉にあった黄色の色素が目立つようになるのです。赤くなるモミジやドウダンツツジなどは、アントシアニンという物質がつくられはじめ、多くなると葉は赤く色づいて見えます。

新型コロナの感染者数が減少していますが、一日も早く終息して、鮮やかな赤や黄色の紅葉をゆっくりと楽しめる日が来ると良いですね。

藤島銀二

編集発行
八日市地区まちづくり協議会 八日市コミュニティセンター内
IP電話 050-8034-1141　電話・FAX 23-4120
E-mail　8comi920@e-omi.ne.jp
Instagram　LINE　Facebook